平成14年2月1日（毎月1日・15日発行）広報にいつ☆編集・発行／新潟県新津市／〒956－8601新津市大字程島2009番地／☎0250－24－2111㈹

立ち上がれ！バイオリサーチパーク②
新潟薬科大学応用生命科学部 教授陣紹介

食品科学科食品安全学研究室教授（就任予定）
細菌学博士 **田中信正さん**

―アメリカでの生活が長かったとお聞きしましたが？

私は東京で生まれ育ちましたが、新潟とまったく縁がなかったわけではなく、母は小千谷の出身でした。東京大学農芸化学科を卒業して民間の研究所に勤務した後、フルブライト奨学生としてアメリカに渡り、ウィスコンシン大学で細菌学の博士号を取得しました。十年間同大学の食品研究所で研究室長を務め、ボツリヌス菌を中心に食品安全性の評価の研究を行いましたが、その後会社を作って独立し、食品に関するニュースの紹介やコンサルティングなどを行いました。その間、日本の食品科学、特に安全性に関する研究、教育がばらばらに行われていることや、食中毒の疫学に関して世界に遅れをとっていることなどについて憂いを持つようになりました。

このたび新潟薬科大学から、私の考えを取り入れた新学部をつくるので、帰ってこないかというお話があり、三十六年余りを過ごしたアメリカから、昨年九月末に新潟へ来ました。

―新しい大学生活で楽しみにしていることはありますか？

「職住近接」という私の考えから、新津市内に住むことになりました。そこでは、大学との近さや広いスペースを利用した勉強会や、外国人研究者の短期宿泊などを行いたいと思っています。外国人研究者の受け入れは、新学部の研究者、学生共通の大きな刺激になると思いますので、積極的にやりたい仕事の一つです。

―応用生命科学部での抱負をお聞かせください。

日本の大学ではユニークな、総合的な食品科学を研究し、教えていきたいと思います。大学が基礎的研究を行うのは当然ですが、それは将来社会の役に立つものであり、また社会のニーズが分かる即戦力の学生を育てるものでなければなりません。そのために、企業の協力を得て、学生がその企業の抱えている問題に関する仕事を卒論のテーマにする「インターンシップ（就業体験）」を行い、また社会人に授業を開放したいと思っています。そして科学技術英語の指導にも力を入れたいと思います。

さらに、社会に開かれた大学を目指し、社会人学級、あるいは公開講座などを積極的に開いて地域との交流を盛んに行い、地域の活性化に役立ちたいと思います。

一緒に考えましょ！男女共同参画社会

女（ひと）・男（ひと）ひろば
＜第11回＞

男女共同参画は、特別のことではありません。少し視点を変えてみると、無意識のうちに実践できていることもあると思いますよ。

気づかずに実践している こともあるんだ

酒井 清美さん（小戸下組）

「女なんだから、とか、男なんだから、こうしなさい」という言葉。使わないように…と思っても、つい自分の息子に使ってしまって、「男女共同参画社会はなかなかムズカシイ」と思っていました。

けれど、吉田千秋の「ひつじぐさ」を歌いたい、そして大勢の人に知ってほしいという気持ちで始めた合唱の会に、夫婦で練習に参加していて気が付きました。

夫婦のどちらか一方だけが楽しむのではなく、思いやり合って両方が楽しい時間を過ごすこと。そして、みんなが楽しく快適に時間を共有するために、協力し合って地域の活動に参加すること。これも男女共同参画の一つなんですね。

緑の風薫り 笑顔ゆきかう ふれあい文化都市

にいつ 新津

新津市第3次総合開発計画：平成7～16年度

- **水と緑のまち** 快適で安らぎが漂うまち
- **明るく元気なまち** 健やかで優しさが響きあうまち
- **にぎわいと交流のまち** 人が輝き活力のみなぎるまち
- **個性豊かな文化のまち** 豊かな人間味と文化の薫るまち